県外派遣報告書

審判員名	藤林 比登美	所属　U18東部
大 会 名	令和6年度　関東高等学校女子バスケットボール大会	
期　　間	2024年6月8日（土）～9日（日）	
会　　場	アリーナ立川立飛／東京女子体育大学	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
6月5日（水）	審判会議	（オンライン）自宅
6月8日（土）	1・2回戦	東京女子体育大学
6月9日（日）	準決勝・決勝	東京女子体育大学

会議　講義　内容

「ヘルプディフェンスについて」
指名審判員　村上恵美氏（神奈川）、坂美佑紀氏（茨城）、大坪綾音氏（千葉）
～POINT～
①誰のプライマリーで起きているか。
②誰がDFを一番長く見ることができていたか。
③ヘルプディフェンスレベルより下にいるオフェンスをリードは把握する。
④ペイントの中が全てリードが判定するというわけではない。（プライマリマッチアップはそのまま）
⑤推測して吹かない。
⑥センターは引き続きセカンダリとして判定にアテンドする。
⑦ペイントをルーズにすることでスライスアングルをとる。
⑧オフェンスの肘や膝などの判定はセンター、トレイルからのアングルが良く見える。
⑨トランジションはヘルプディフェンスの定義はなく、判定はリードが一番手となる。
※ペイント内のコンタクト≠全てがリード
★key word「慮る」
ゲームを進めるにあたり・・・
「正しいルール・IOTの実践」→「Basicなメカニクス（ヘルプディフェンス等）」→「３人の共通理解・リスペクト」 を大切に、**思考・判断・決断**をしていく。good game good jpで終われるように。

実技

担当試合	期　日	6月8日（土）		女子		
	対戦カード	作新学院	VS	千葉英和	CC　U1　(U2)	
	相手審判	CC中野嗣久氏（東京）　U1望月由希子氏（千葉）				

ミーティング内容　　主任　久保あしみ氏（千葉）

ゲーム前のミーティングでは基本的なメカニクス、審判会議でご講義いただいたヘルプディフェンスについて再確認をした。試合の中で起こったヘルプディフェンスについて、クルーで共通して判定を進めることができた。
試合を通して、トラベリングに対して判定の基準を示せると良かった。突き出しの遅れ・踏み替え・ズレなどについての明らかなものをクルーでセイムコール出来なかったのが反省である。ヴァイオレーションだけでなくファウルについてもベーシックに判定していくことが、結果的にゲームコントロールに繋がっていく。判定に対してのベンチからのアピールに対しても、寄り添いながらゲームコントロールに繋げられれば良かった。

実技				
担当試合	期　日	６月９日（日）	女子	
	対戦カード	鵠沼　VS　東京成徳		CC　U1　U2
	相手審判	CC三好英美氏（東京）　U1久保あしみ氏（千葉）		

ミーティング内容	主任	竹澤友美氏（埼玉）

ゲーム前のミーティングではプレーコーリング、チームの情報などを共有した。
終始点数の入れ合いとなるエキサイティングな試合展開であり、タフなコンタクトが非常に多い印象であった。クルーとしては、共通認識を図りマージナルとして判定していたものが、試合後のミーティングではもう少しコンタクトへの白黒をつけられると良かったと講評をいただいた。イリーガルな手の使い方やコンタクトの起こし方は、その場だけの影響でなく、試合を通して影響してしまうものである。一つ一つの判定に意味を持ってゲームをコントロールしていけるようにしたい。個人の反省としては、スクリーナーに対してそのディフェンスがストレスを与え続けているところに対して決着をつけるべきであった。

全体の感想

この度は、関東高等学校女子バスケットボール大会へ派遣していただきありがとうございました。初日の2試合を担当させていただきましたが、コンタクトについてどのように判定をしていくかということが課題として残りました。リーガル・イリーガル・マージナルなコンタクトに対して、根拠を持って示せるように判定の質を上げていきたいと思います。また、今大会では、ここ数年間で一番女性審判員数が多かったとお聞きしました。私自身、同じ年代の女性審判員の方との交流などからとても良い刺激をもらい、これからより一層頑張っていきたいと思える大会でした。同時に、オンザコートでの力強さについて、私自身がまだまだ足りないことも痛感しました。

最後になりますが、今大会を運営していただいた皆様、開催県である東京都バスケットボール協会の皆様、派遣審判員の皆様、日頃よりご指導いただいております埼玉県審判員の皆様へ心から感謝申し上げます。今後ともこういった機会をいただけますよう、審判活動に取り組み精進して参ります。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	増子　友紀	所　　属	U18
大 会 名	令和　６年度　関東高等学校女子バスケットボール大会		
期　　間	２０２４年　６月８日　～　９日（参加日：６月８日）		
会　　場	アリーナ立川立飛		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
６月５日	審判会議、研修会	ZOOM 会議　参加者自宅他
６月８日	A 級１次審査	アリーナ立川立飛

審判会議、研修会　講義内容

● ３PO の HDR について

・リードは近づいてくるドライブに対してルーズザペイント（広がる動き）をする。

　→オフェンスの姿の破片でもいいから見えるようにすること。

・ただし、速攻の場合と区別すること。一番手がリードになる。

・速攻でも HDR でもセンターも判定しにいく気持ちを忘れないことが大事。

　→センターの方が良い場合もあることを忘れない。

●あらゆる場面での「慮る」気持ちを大切にすること。

・ランク、年齢、性別関係なく、「クルー」で試合に臨むということ。

・それぞれが自身の力を発揮できるようにすることが大事。

担当試合①

期　　日	６月８日（土）　１回戦
対戦カード	藤村女子高校（東京）vs 白鵬女子高校（神奈川）
ク　ル　ー	CC：増子友紀（埼玉）　U1：若菜有貴氏（千葉）　U2：大森彩恵氏（山梨）

ミーティング内容	審判主任：茂泉圭治氏（神奈川）

▶ゲーム前の PGC

　３PO メカニクスの確認　対戦チームの特徴について

▶ゲーム後のミーティング

　試合のポイントが１９０ｃｍのセンター周りのプレーであったが、ＤＦの守り方など整理しきれていなかった。その結果、選手にフラストレーションを与えることになってしまった。クルーでは事前に情報を確認しており、前半の内から気になっているプレーであったが、情報の共有のみで、対応についての話ができていなかった。試合からなくしていきたいプレーについて、どういう手立てをするか、しっかりと考え、実行する力がもっと必要であると感じた。

全体の感想

●ゲーム後のミーティングでもご指摘頂いたように、試合の中でポイントとなるプレーへの対処が悪かったと自分でも感じています。プレーへの気づきに対して、どうやってメッセージを伝えていくか、ゲーム全体を考えたときに、いつどう笛を入れる必要があるかもっと力をつける必要があると思いました。

●自身のレフェリングが淡々としている、とご指摘を頂き、ゲームの状況やプレーの中身に合わせて表現方法を工夫していけるよう、さらに練習を重ねていきたいと思います。

●クルーチーフとして、３人で一貫したレフェリングができるよう、クォーター間やタイムアウトの際の話し合いを工夫していけるようになりたいと感じました。

県外派遣報告書

審判員名	大野　紗佳	所属	U12西部支部
大 会 名	第78回　関東高校女子バスケットボール選手権大会		
期　　間	2024年6月8日（土）・9日（日）		
会　　場	東京女子体育大学アリーナ・アリーナ立川立飛		

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
6月5日（水）	審判会議	オンライン
6月8日（土）	関東大会1・2回戦	アリーナ立川立飛

会議　講義　内容

指名審判員の村上様、坂様、大坪様より「Help Defender」のポイントについてレクチャーいただきました
Help Defenderの判定は、以下9つのポイントを意識する
---
①誰のプライマリエリアで起きたか
②誰がそのディフェンスを一番長く見ることができていたか（Stay with the play）
③ヘルプディフェンスレベルより下にいるディフェンスをリードは把握する
④ペイント内で起きる全てのケースがリードというわけではない。ヘルプディフェンスではなく、プライマリマッチアップのレフェリングは今までと変わらずそのプライマリのオフィシャルが判定
⑤推測して吹かない
⑥センターは引き続きセカンダリとして判定にアテンド
⑦ペイントの中に入る動きではなく、ペイントをルーズにすることでスライスアングルをとる
⑧オフェンスの肘や膝などへの判定はセンター、トレイルからのアングルが良く見える
⑨トランジションではヘルプディフェンスの定義はない。リードがまず一番手となり、リードが鳴らなかった場合にセンターがコールする

ペイント内の全てのコンタクトがリードのプライマリということではないので、無理なアングルから無理なレフェリングをしないように意識する

実技

担当試合	期　日	2024/6/8	男子	女子	
	対戦カード	都城東　VS　高崎商業		CC　U1	U2
	相手審判	CC：内藤 教子 氏（山梨県）　U1：小山 愛菜 氏（茨城県）			

ミーティング内容　　主任　一色 渉 氏

点差の離れるゲームの中で、集中力を切らすことなくクルー3人進められたのは良かったが、その中で吹いてしまったもの、吹けなかったものがそれぞれ目立った。ボールミートや突き出しのトラベリングに関して、最初に一本コールした後、その後誰もコールせず最後まで基準が作れなかった。点差の開くゲームでも、バイオレーションは白か黒しかないのでクルーで共有し判定し続けるべきだった。メカに関しては、PGCでハイセンターについて共有していたので、フロントコートの高い位置でのプレスに対しローテーションがスムーズだった。一方で、2or3に対する危機感が弱かった。もっとLからヘルプをする必要があった。EOG0.5sで時計とプレイのプライマリーだったが、最後まで判定できたのは良かった。

全体の感想

今回大会に参加させていただき、クルーワークの大切さを改めて感じることができました。
審査ゲームということもありそれぞれ挑戦したいことやアピールしたい部分があったかと思いますが、担当させていただいたゲームを問題なく始めて終わらせることの重要さをクルー間で共有できていたことが、ゲームを円滑に進められた要因だと考えます。
また、大会2日目を見学させていただいた中で、上級同士のコミュニケーションの取り方はとても勉強になりました。アイコンタクトの多さや、クルーの心情を汲みとった笛の吹き方、ベンチへの声の掛け方など常に相手を「慮る」ことでゲームが良い方向へ進んでいくのだと感じました。
最後になりましたが、今回の派遣にあたり、大変お世話になった東京都バスケットボール協会の皆様、また今大会へ派遣してくださいました眞榮喜審判長をはじめとする埼玉県協会の皆様と、日頃活動でご指導してくださる皆様に心より感謝申し上げます。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

県外派遣報告書

審判員名	山宮紅葉	所属　　埼玉県　社会人連盟
大 会 名	令和6年度　関東高等学校女子バスケットボール大会	
期　　間	2024年 6月8日（土）～2024年　6月9日（日）	
会　　場	アリーナ立川立飛・ 東京女子体育大学	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
2024年6月5日（水）	審判会議	zoom
2024年6月8日（土）	富士学苑　対　市立柏	アリーナ立川立飛

会議　講義　内容

指名審判員レクチャー
S級審判員　村上 恵美 様
S級審判員　坂 美佑紀 様
S級審判員　大坪 綾音 様

・ヘルプディフェンダーについて。
　→プライマリーとコールについて
● Help Defender
~Point～
⑴誰のプライマリエリアで起きたか。
⑵誰がそのディフェンスを一番長く見ることができていたか。【 Stay with the play 】
⑶ヘルプディフェンスレベルより下にいるディフェンをリードは把握する。
⑷ペイント内で起きる全てのケースがリードというわけではない。ヘルプディフェンスではなく、プライマリマッチアップのレフェリングは今までと変わらずそのプライマリのオフィシャルが判定。
⑸　推測して吹かない。
　　（見えなかったときは吹かない。）
⑹センターは引き続きセカンダリとして判定にアテンド。
⑺　ペイントの中に入る動きではなく、ペイントをルーズする ことでスライスアングルをとる。（ディフェンスの背中ではなく、オフェンスの姿の碳片で も見えるアングルをとる。）
⑻オフェンスの肘や膝などへの判定はセンター、トレイルからのアングルが良く見える。 [Primary take/Presentation)
⑼トランジションではヘルプディフェンスの定義はない。リードがまず1番となり、リードが鳴らなかった場合にセンターがコールする。[Cadence Whistle]
●Be Careful!!!
→ヘルプディフェンスレベル・・・フリースローレーンの一番高い位置にあるハッシュマークを結んだ線、これより下に位置するヘルプディフェンスをリードが把握していく。
※ヘルプディフェンスレベルより上にあるプレーやコンタクトは、トレイル・センターが基本的にはカバーする従来のメカニクスと変わらないイメージです。
〇Floor coverage
ペイント内でのコンタクト
＊全てがリードのプライマリ
〇Angle &Positioning
無理なアングルから無理なレフリングをしないこと。
（判定の質が下がる）

実技						
担当試合	期　日	2024年6月8日（土）		女子	12:00	
	対戦カード	富士学苑	VS	市立柏	CC　U1	(U2)
	相手審判	CC 佐々木廣子氏（神奈川県）　U1 新井のどか氏（群馬県）				

ミーティング内容	主任	中嶽希美子氏

●3人でゲームを進めていく。
●BASICを大切に。
●感じたことや気づいたことは共有する。
〇審判会議であったレクチャー内容の確認
〇ゲームコントロール
ファウルの数、フリースローシューター、ショットクロックとゲームクロックの管理、TO管理、様々な情報を持っておく。
〇コミュニケーション
・クルーを信じる。
・持っている情報はその場で共有する。
・相手から情報を欲しい時には自らコミュニケーションを取る。
・見たもの、判定したものを正直に表現していく。
〇チーム情報の共有

全体の感想

1ゲームを通して、クルーの中でよく情報を共有しながら試合を進めることができた。自分自身、ペイント内のプレイヤーのコンタクトが気になっており、その点がクルーで共有できたことにより、それぞれがプライマリーを見つつ、目を当てていくことができたように感じる。トラベリングやチャージング等、クルー間でもよく話し今のチームの状況＋公平性が保てるようにしていった。しかし、TOどのトラブルが3回あり、スコアやファウルの数を確認するケースがあった。両チーム初戦であったし、ゲームを止めてしまうことが続いたこともよくなかった。又、ゲーム中に濃淡どちらのファウルなのか、というケースが多くあった。その点もレフリーがTOにわかりやすく声を使ってコールしたり、ゆっくり行う事ができていれば、このような対応はなかったと感じる。

反省で頂いたセンターからのコールでも良かったりするケースも、リードからのシングルコールで鳴ってしまうケースがあった点は、それぞれがアングルや視野がうまく取れておらず、そのようなコール続いてしまった。ダブルコールも確かに少なかったので、その点も改善していく必要があると感じた。

ゲームの流れを読み取って、「必要な笛」を考えて、判定を重ねていくことが出来ないことがあり、その点は大きな反省である。関東大会という点もあり、プレイヤーやベンチの意図を汲み取り、目を当てたつもりでいたが、自身の笛でプレイを決めてしまった部分があった。

関東大会という舞台で、他県の方々と吹く機会は私にとってはとても勉強になる場でした。自身のレベルも改めて知ることとなり、また研鑽を積んでいきたいと思いました。都県の様々な方と交流させて頂き、審判のことだけでなくバスケットの勉強にもなり、その点もとてもおもしろいと感じました。この大会を通して勝敗含め様々な事が決まりました。それはそれぞれの積み重ねできたことの結果であったんだと感じます。「バスケット」の理解、チームやゲーム全体に目を向ける事等、たくさんの情報をもっと感じ考え、判定を重ねていけるようにしていきたいと思います。
ありがとうございました。